

機能検査

舌小帯測定



舌小帯は、発音、咀嚼、嚥下時に舌が動きます。

ある程度の長さが必要で、**当院では、20～25mm以内
が基準値です。**

また付いている位置に異常がないか確認し、異常がある場合は切除手術を実施する場合があります。

最大開口量



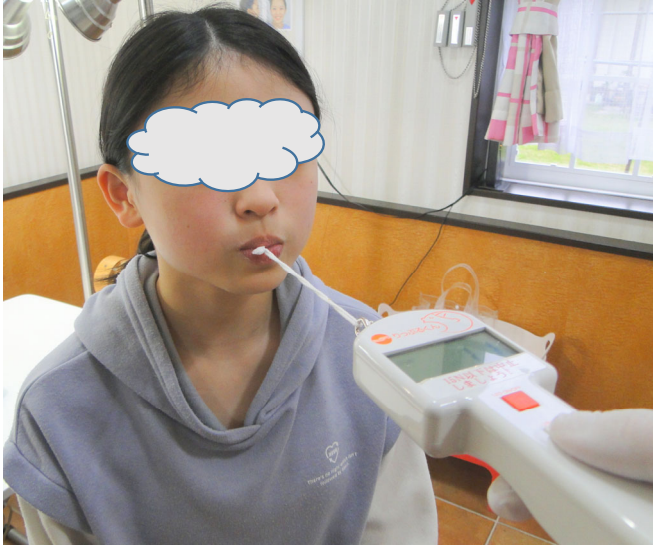
顎関節に異常がないか、または咀嚼・発音時に顎の動く範囲が正常かどうか測定します。

吸い上げ開口量

舌を正しい位置につけて、関節や舌小帯に問題がなく口を開けることができるか調べます。



口唇力測定



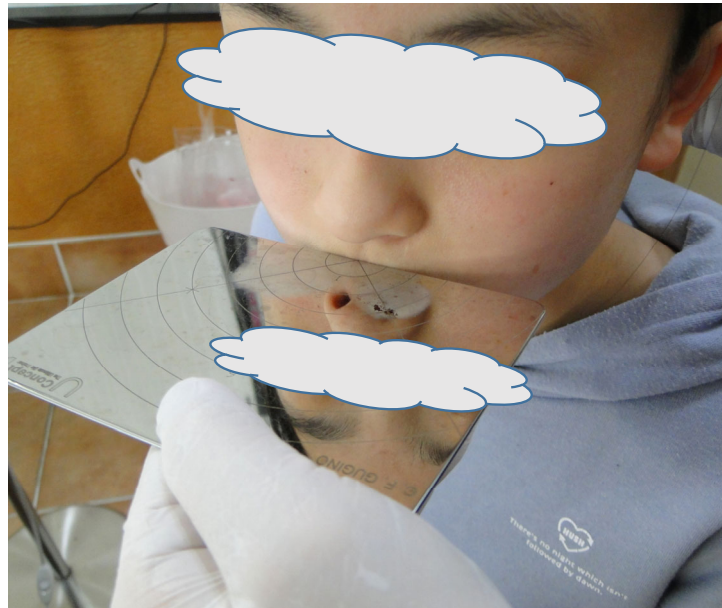
口まわりの筋肉の力や口を閉じる力を測定します。



松風

NASOMETER (鼻呼気量測定)

鼻でする呼吸の量がどのくらいか調べます。



JM ortho

舌圧測定/舌尖測定(当院一部考案)

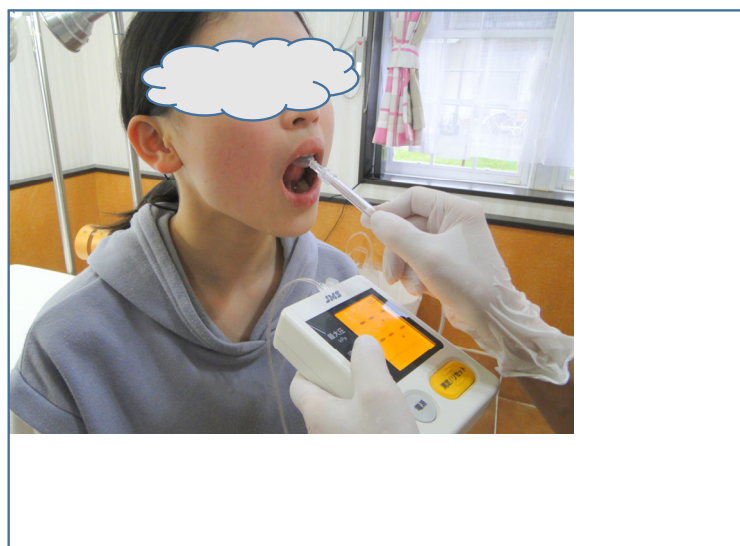
舌圧測定…舌を上顎に押し上げる力がどのくらいあるか測定します。

舌尖測定…舌の先の力を測定します。

(食べ物を飲み込む力、正しい舌の位置につける力)



JMS



咬合力測定器（オクルーザルフォースメータ）

奥歯で噛む力がどのくらいあるかを測定します。



長野計器

パタカテスト

口唇や舌の動きの速度やリズムを評価します。



アズワン
竹井機器工業

握力測定

握力を測定することで、噛む、身体のバランスの偏りなど日常生活の癖などもわかります。



N-FORCE



AGES 検査



別名糖化老化と言います。

食事などから摂った余分な糖質が、体内のたんぱく質などと結びついて、体内の細胞を劣化させているかどうか調べます。

咀嚼能力測定

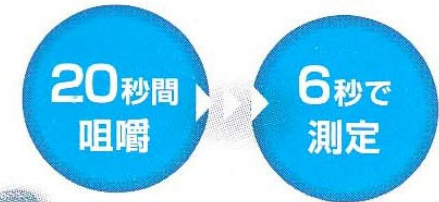
咀嚼能力検査装置

GLUCO SENSOR GS-II グルコセンサー GS-II

グルコース含有グミ「グルコラム」を20秒間咀嚼後、吐き出したる液をセンサーチップに点着することにより、約6秒間で自動的にグルコース濃度が計測され表示、咀嚼能力を簡単に測定し数値化します。患者さんがどれくらい物を噛めているかを、患者さん・歯科スタッフで共有し、診療に役立てていただけます。

検査の手順

- 1 計量カップ内側の10の線まで水を入れ、水を容器(コップ等)に移す
- 2 ディスポーザブル専用メッシュ(ろ過メッシュ)を組み立てる
- 3 グルコラム(グルコース含有グミ)を袋から取り出す
- 4 グルコラムを口に含み、主咀嚼側で咀嚼する(唾液を呑み込まない)
- 5 20秒間咀嚼する
- 6 コップの水を口に含み、ろ過メッシュをコップに浸せる
- 7 再度咀嚼する
- 8 センサーチップを準備する
- 9 センサーチップをろ過メッシュに点着させる
- 10 待つ
- 11 測定結果を確認する
- 12 測定結果: 208 mg/dl



G C

どれくらい食べ物を噛みくだく能力があるか調べます。

パルスオキシメーター 測定

一定の時間に心臓が拍動する回数と、酸素を肺にどの程度送り込めているか調べます。



オムロン

血圧測定

心臓が血液を送り出す際に血管内にかかる圧力を測ります。



唾液アミラーゼ検査

唾液を採取し、身体のス​​トレス状態を検査します。



動画撮影

座っている姿勢
横向き姿勢
呼吸
表情
発音
食べる・飲み込む

を撮影

